



# 根本的対策はコレ！ 首都圏直下地震に

十二月一日から八日までの「体感 首都直下地震ウィーク」(NHK)をご覧になりましたか？三十年以内に七十%の確率で発生するという首都直下型地震。内閣府の被害想定に基づき、東京で起きることをドラム化した「パラレル東京」は大変興味深いものでした。

高層マンションの住民は在宅避難が原則だが、停電が長引き、水道も出ないマンションには住めない。そういう住民も来て避難所はパンク・・・。

番組では数々の災害対策が紹介された。しかし、一番肝心なことに触れなかったと思う。

## 人口集中を食い止める

自然災害時、一番の問題は首都圏に超多数の人がいること。火災

で家を失った人、ゼロメートル地帯で浸水被害を受けた人、建物の倒壊に巻き込まれた直接の被災者。

そして、高層マンションで電気も水道もない人、帰宅困難者。

超高層ビルやマンションが建てられる毎に増える人口。

今、政治に求められることは、このような大都市への人口集中を食い止めること。

超高層ビルの建設を規制すると共に、産業でも教育でも地方が大会より有利になるような政策をとることではないか？大都会の事業所には特別の課税をし、地方に移った事業所に援助するような仕組みを作ったらどうだろう。教育でも、物流でも地方や僻地、離島に援助をしたり・・・あなたはどう思われますか？

## 五所神社前の高架橋

神奈川県足柄下郡湯河原町宮下

二〇一九年十月



五所神社は天智天皇の時代に建てられたという。千歳川沿いの湯河原温泉街から湯河原駅に向かう途中にある。

平安時代末期、この附近は桓武平氏の血を引く土肥実平が支配していた。それで湯河原駅前に土肥実平の銅像がある。

一一八〇年の源頼朝挙兵の時、土肥実平が刀を五所神社に奉納。それが神社の宝として現存しているという。

五所神社の前で描こうとすると、目の前に新幹線の高架橋がある。数分おきのぞみ、ひかり、こだまが走る。

新横浜から新幹線に乗ると二時間余りで京都に着く。とても便利で快適と思う。

しかし、快適さの陰に、新幹線の沿線に住み轟音に曝される方々がいることを、思い知らされた。

